

令和4年度 一本松中学校学校評価(学年末)

愛南町重点目標

評価規準 A：目標を達成 B：6割以上肯定 C：4割以上肯定 D：4割未満 サンプル数 教職員(8人) 生徒(45人) 保護者(34人) 地域住民(24人)

重点目標	評価指標及び目標値(期待される姿)	学 年 末 評 価	評 定	学校による考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	アンケート結果(%)			
						4	3	2	1
3 確かな学力の定着と向上	(1) 楽しく、わかる授業の充実	楽しく、わかる授業に取り組む。 【目標値】 教職員・生徒・保護者の8割が肯定	A	◇授業の導入にICTを活用したり、学習形態の工夫を行ったりして学習意欲を高めることができた。クロームブックを活用して対話的学びの場(ジャムボード)を設定し、思考力、表現力の向上に努めた結果であると思われる。 ◆クロームブックの活用については、家庭学習での使用は定着しているが、学力の定着まで結び付いていない。学力の向上に向け、支援の仕方や提示の仕方などを工夫していく必要がある。	教職員アンケート	100	0	0	0
	(2) 問題解決的な学習の充実	主体的・対話的で深い学びを意識した授業に取り組む。 【目標値】 教職員・生徒の8割が肯定	A	◇ 教職員からは100%の肯定的な回答である。学習指導要領の目的に沿って、個々の教職員が授業研究を行っていることの表れだと考えられる。各教師の実践を経て得られた成果を共有し、さらに向上させていきたい。 ◆ 生徒アンケートの肯定的な評価が97%ではあるが、教職員の回答との隔たりを感じる。また、1名ではあるが、否定的な回答をした生徒もいる。少人数指導ができる利点を生かし、細やかな実態把握や教職員間の情報共有を通じて、授業改善に取り組みたい。	教職員アンケート	100	0	0	0
	(3) 教育のデジタル化の推進	コンピュータ端末を活用し、個々に応じた学習に取り組む。 【目標値】 教職員・生徒の8割が肯定	A	◇教職員・生徒ともに9割以上が肯定しているため、A評価である。デジタル教科書やミライシード、グーグルのアプリなど、複数のツールを活用しての授業を実践している。また、自主学習やテスト勉強でも、クロームブックの活用が進んでいる。 ◆家庭学習での活用が増えるように、今後も工夫した取組が必要である。	教職員アンケート	62	38	0	0
	(4) 家庭学習習慣の定着	家庭学習1日90分(塾も含む)の習慣が身に付いている。 【目標値】 教職員・生徒・保護者の8割が肯定	B	◇期末テスト期間中は、生徒も学習をやらなければならないという気持ちでしっかり取り組んでいる。継続した学習になると学力の向上につながると思われる。 ◆生徒の宿題忘れや忘れ物があるため、家庭学習の習慣が十分身に付いているとは言い難い。自分の部屋で机に向かっていると、勉強していると考えてしまうのではないかなと思われる。今後は内容や学習の質の把握が必要である。	教職員アンケート	0	62	38	0
	(5) 図書館機能の活性化	各教科等の学習において、図書館の活用を努める。 【目標値】 教職員・生徒の8割が肯定	A	◇教科等の学習における図書室及び図書の活用が、国語科だけでなく他教科等へやや広がったこと、図書委員会による昼休みを使った図書クイズの会や集会での提案、貸出時間の増加、eスタ学習(新聞記事を読むこと)の定着により、目標値8割の肯定が達成できたと思われる。 ◆まだ読書が生活化していない生徒に対して、個別や委員会としてのアプローチをすることで、意識を変えるきっかけづくりを根気よく実践していかなければならない。また、教科等でのより広い活用を考えていかなければならない。	教職員アンケート	50	37	13	0
	(6) 教職員の資質・教科指導力の向上	資質や指導力を高めるために研修や自己研鑽に努める。 【目標値】 教職員の8割が肯定	A	◇昨年度末に比べ、(4)を選んだ割合が大幅に増えており、校内外の研修に熱心に取り組んだ結果と捉える。ICT活用部会、いのち・心の部会のそれぞれの取組においても、教職員間で共通理解を図りながら進めることができ、一定の効果を上げている。 ◆EILS(愛媛県版)やMEXGBT(全国版)など、ICTを活用した学習システムによるテストやドリルが増えているが、そのシステムの活用については改善の余地がある。それらに対応できるよう、今後も継続して研修を積み重ねていく必要がある。	教職員アンケート	50	50	0	0
学校運営協議会の所見	学 年 末 評 価			○学習習慣の評価はBでも、周囲に刺激を受けて頑張ろうとしている子供の姿が見られる。 ○時代の流れを柔軟に取り入れて対応していると感じる。 ●家庭学習で他の生徒がどのような学習をしているのか知りたい。子供同士で情報交換をさせてみてはどうか。 ●家庭学習については、学校と家庭で協力して取り組むことと、小中の連携によって習慣化を図ってほしい。 ●家庭学習について、90分の時間だけでなく、学習内容や質を把握してほしい。	学校の対応	学 年 末 評 価	学習習慣の確立のために、学校と家庭が連携していくことに加え、生徒同士の学び合いの場を設ける。学習面においても、協力し合い、刺激し合える集団づくりに努める。		